

所信表明

二〇二四年度中央常任委員長選挙所信表明

中央常任委員長候補

文学部 三回生

白井 岳歩

私は文学部日本史研究学域に所属しています。私は過去〜現在の立命生によって愛され・確立されてきた『自由の精神』を引き継ぎ、学友会規則第五条などにも表されるような、学生による学生のための組織『学友会』の原点に立ち返りたいと考えております。

私自身、この立候補以前にも有志学生コミュニティ『リガク』を立ち上げ、学友会に対して学生に寄り添った活動を求めてきました。『リガク』では『大学に対して気軽に自分たちの思いを伝える』と言う基本方針のもと、2023年〜多くの学生の意見を収集し、39項目にも及ぶ要望書を作成し、2023年11月3日に学友会に提出しました。※要望書では、【キャンパス間シャトルバスのバリアフリー化(若しくは移動費の補助支給・福祉タ

クシートの導入)へ大教室へのスロープの設置へ学内喫煙所封鎖問題の解決へ学費増額への反対へ授業時間を90分⇒100分とするプランの凍結へ冷暖房をいつでも使えるようにしてほしいへ図書館の夜間開放】などを求めました。

2週間の回答期間を設け、回答と回答期日の厳守を約束していただけたが、直前になっても学友会からの回答がなく、締切日(2023/11/17)に再び問い合わせると驚きの回答を受けました。曰く『そもそもそのような要望書を受け取ったと言う事実が学友会内で共有できていない』とのことでした。多くの学生が思いを込めた要望書が、彼らにとって忘れてもよいモノであったという厳しい現実に驚きました。その後、メールでようやく回答を示して頂けたが、『検討事項として受け取った』とのみ記されており、具体的にどのような会議でいつ頃までに検討して頂けるのかも明示されていませんでした。このような在り方では、学友会が活動への関心・同意を学生から得られなくなるという危機感を抱き、立候補しようと考えました。

・全学アンケートの頻度上昇

・多様性を尊重した自治運営・『リガク』ではキャンパス間シャトルバスがバリアフリー化されておらず、車椅子の学生はキャンパス間の移動に公共交通機関を使用せざるを得ず、その分過

剩にかかってしまう金銭の補助も一切ない現状を多様性、社会的包摂の観点から問題視しており、実際に車椅子を利用する立命生（経営学部3回生藤枝さん）を招き、聞き取りと対談を実施した。（noteにて議事録公開中）対談の中で、藤枝さんは「本当はもっとキャンパス間の移動をしたい」「金銭的な負担と精神的な負担が存在する」／「当事者は不満を言いにくい」などの指摘をしてくださりました。多様性を重視する立命館に於いてこのような問題が存在するということが、当事者の数が少ないためか議論にもなっておらず、1年以上前から解決されていないことは問題ですし、このような取り組みを学友会は行うべきです

・学生自治に対する理解を深めるためのイベントの実施・私は自主ゼミにて学生自治に関するシンポジウムを開催する予定であり、他大学の教授を招聘することが確定している。このような取り組みを大規模に行うことで、全学アンケートや選挙の回答率の上昇が見込める。

・アンケートなどで収集した学生の意見の反映とその取り組みの可視化・回答したものの対策が無い／どのような会議にどのような形で具体的に検討されているか明らかになっていないといった状況では自治に対する無力感が増加する

・サブゼミの活用・学友会や自治制度についての学習の時間を設ける

・学内掲示板やホームページ以外での活動紹介などの取り組みを行います。また、ゼミナール大会の企画やSNSでの綿密な広報活動など、各学部自治会ごとの特色ある取り組みを活かし、相互にその強み・ノウハウを共有し合い、より発展させていくべきであると考えています。また、学園祭では規制解除を達成し得たのですから、学友会の活動においても学生とより質的な接点を持つべきであると考えます。

以上のような学生の自治意識形成や意志反映に重点をおいた取り組みを進め、学友会のこれまでの活動・組織として蓄積してきたノウハウを活かしつつ、学生のための学友会を発展させていく所存です。

次のページより二人目の候補者による所信表明を掲載しています。

併せてご確認ください。

中央常任委員長候補

法学部 三回生

横尾 陽太

この度、中央常任委員会中央常任委員長に立候補しました、法学部法学科司法特修 ∞ 回生の横尾陽太と申します。正課では、刑事訴訟法ゼミに所属し刑事手続について研究しています。課外では、ボードゲームサークルに立ち上げ人として携わった上で所属をし日々活動しています。また、観劇が趣味で、特に宝塚歌劇が大好きです。

学友会内での主な活動としては、一回生時に法学部自治会副委員長、二回生時に法学部自治会会計、三回生時に法学部自治会副委員長と新歓実行委員会実行委員長を務めています。本文では、立候補に至った経緯、これまでの学友会活動について、これからの学友会について順に述べていきます。

【立候補に至った経緯】

私の所属する法学部自治会は、2022年から2023年の春先まで、三役を立てるのも困難なほど人員が不足していました。そこでも私は、自治会活動の火を消してはならないとの思いで五者懇

談会をはじめとした活動を行いました。しかし、人員が不足していることは、自分のやるべきことが大幅に増えるだけでなく、何をすべきか分からない、仲間がおらず寂しい思いをするといったことを招きました。幸いにも2023年の春以降はたくさんの方の仲間を迎え入れることができ、大幅に法学部自治会は活性化しました。

そこで、私は無理なく、楽しく、仲間とともに活動することができる学友会をつくりたいとの思いを強く抱き立候補を決意しました。

【これまでの学友会活動について】

・法学部自治会での活動

私は一回生の春から、法学部自治会に所属し、初年度から副委員長を務めていました。入ったばかりで何も分からない状態でしたが、先輩方にも恵まれ現在の活動をするための基盤となった五者懇談会をはじめとする自治会活動について教えてもらい、また積極的に活動を行いました。秋学期にはアンケートの作成や実施、実際に議案書づくりをするなど実質的な活動が増えていきました。その他にも、SNSの運用や公式Webサイトの作成も行いました。

〓回生の春学期は、一回生の頃の経験を生かし、より主体的に活動を深めていきました。また、法学の学びを生かした活動をしている法学系サークルや同じ法学部生のみで構成されている学内組織である法学会学生委員会との連携を始めました。法学系サークルとは共同してそれぞれの団体の情宣や部員募集を、法学会学生委員会には窓口業務を一部代行してもらうなど、他団体とのつながりを生みました。

〓回生の秋学期には、期せずしてともに活動するメンバーが減り、主に一人で活動する時間が増えました。学部自治会の主となるべき五者懇談会は行えませんでした。学部との継続的な対話は双方にとって重要であることを学部側へ伝え、学部長と懇談会を行う運びとなりました。この間、来年へ向けて法学部自治会を再興させようと、新規人材の確保を急務としました。オリター団との連携体制を整え、オリター団研修において自治会について説明し、執行委員会の委員募集を行いました。また、新入生全員に対して執行委員の募集チラシを配布するため、チラシの作成・発注を行い、オリター団経由で配布を行う段取りをしました。

2023年度が始まり、執行委員の募集チラシの配布、ウェルカムフェスティバルでの中央パートブースでの勧誘、独自企画であ

る存心館内でのブース企画、SNSの活用などを通して、多くの構成員を獲得することができました。

春学期には、これまで私が学友会と法学部自治会で得たことを可能な限り文書とともに後輩へ引き継ぐことを第一の目標として活動を行いました。私にとって後輩と活動することはほぼ初めてのことで悩む場面もありましたが、なるべくわかりやすく、また考えてほしい部分は考えてもらえるように工夫して引き継ぎとともに活動を行いました。その結果、五者懇談会ではこれまでよりも多くの学部生の意見を取り入れ、充実した議論を行うことができました。また、目に見える形での成果も多く得ることができました。

・新歓実行委員会での活動

私は2023年度新歓実行委員会の実行委員長として主に4月から5月と6月に新歓運動を推進しました。全ての制限が撤廃された新歓運動をイメージすることは、自分が体感していないこともあり難しいものでしたが、全力で新入生を迎えられるように尽力しました。

これまで、学部自治会のみで活動していた私には大きすぎる活動のフィールドを与えられ、当初は各組織とのコミュニケーションや調整に苦心していました。関わらなければならぬ人や

利害関係者も大幅に増えました。まずは、それぞれの思いをよく聞いた上で、できるだけ実現できるように調整を行いました。その上で、それぞれの企画が中央委員会で承認された方針に則っているかどうかを全て確認し、同じ目的を共有した新歓運動となるようにしました。

新歓運動のもっとも大きな企画であるウェルカムフェスティバルでは特別事業部をはじめとした多くの方に参画していただき、無事成功を収めることができました。

今年度は秋学期に行う新歓運動も方針下に置き、これまでよりも多くの学友会員が新歓を受けられるような体制を整えました。まだ、発展途上な部分がありますが、きっかけを作れたものであると確信しています。

今年度の新歓実行委員会は、大きな方針を示しつつも強く拘束することなく、それぞれの団体が独自性を持って企画を行えるような環境を作ること为目标としました。これは、対外的なものだけでなく、実行委員会内でも自主的に活動できるようにすることも目標としていました。

・2つの団体での活動を通して

私は、この3年間大いに自主的に活動することができたと感じています。学友会活動は本来課外自主活動のひとつであること

から、これが本来の姿であるべきと考えます。しかし、全員がこのように捉えることができていないという現状があるように見えます。そこで、私は以下の通り、来年度の学友会を形づくっていきたいと考えます。

【これからの学友会について】

私がつくりたい、理想の学友会は

- ① 課外自主活動らしさを取り戻した学友会
- ② 主体者を増やし仲間とともに活動できる学友会
- ③ さらに学友会について知ってもらい、みんなで作り上げる学友会
- ④ 先輩方が整理し組み上げた活動を基礎にしつつも変化を取り入れられる学友会

の4つです。それぞれについて詳しく述べていきます。

① 課外自主活動らしさを取り戻した学友会

現在の学友会には、どうしても「仕事」と呼ばざるを得ないようなやるべきことがあるように感じている方が多いと思います。なぜ仕事と感じるかにはさまざま理由があると思いますが、誰かに言われて何かをしている、なぜこれをしているのか分から

ない、スケジュールがタイトすぎるといったことがあると考えます。

そのため、指示によって生まれるやるべきことの削減、学友会全体として余裕のあるスケジュールの作成、共通した作業の標準化などを行います。

特に、共通した作業や活動、事務手続については現状を整理し、削減できるものは削減、効率化できるものは効率化、共通化できるものは共通化するなど、それぞれの団体が重複して同じことにリソースを費やさないようにし、加えてノウハウの共有をできるようにしていきます。

しかし、これについてもトップダウン的に行えば、逆説的に「仕事」が増えてしまいますので、あくまで大きな方針を示し、それぞれが自由に解釈した上で取り組みを行ってもらい、サポートが必要な団体とはともに解決方法を考えられるようにします。これらの施策を実行することによって、各団体には今までよりも余裕が生まれ、独自性を持った自主的で自由な活動が行えるようになることを期待しています。自由な時間こそが課外自主活動にもっとも必要なことです。

②主体者を増やし仲間とともに活動できる学友会

特に中央パートでは毎年のように人手不足が深刻です。ともに活動する仲間がいなければ、やるべきことの負担が大きくなり、課外団体らしさである友人・人脈づくりも望めません。そのため、今年度ウェルカムフェスティバルで行ったような中央パート全体での出展や新入生へ向けての説明会を拡大しつつ引き続き行います。また、必要に応じて効果的な新歓の方法や広報素材などを提供しサポートを行います。また、一旦入ってみたものの自分に合わなかったり、忙しかったりと途中で出ていく人も多くいます。合わなかったという人には、自分に合った活動ができる場所を提案していきます。加えて、引き続き活動していきたいという人には、本人の希望をよく聞いたりした上で学友会内のさまざまな組織でキャリアを積めるように話を聞く機会をつくります。

人手不足は中央パートだけでなく、学友会所属団体の多くにも共通していえることと考えます。サークルコレクションやウェルカムフェスティバル、学園祭などを通して日頃の活動を発表する機会を確保するとともに、新歓の場を継続して提供します。

③さらに学友会について知ってもらい、みんなで作り上げる学友会

学友会、特に中央パート内での活動には外から見えにくい部分

も存在します。学友会の認知度や自治意識が低いのも我々が何をしているか分からず、議論できる素材がないからであると考えます。そのため、議論のベースとなる情報などを公開するとともに学友会へのアクセスを容易にしていきます。また、あわせて中央パート全体でどのような活動を行っているかということについて知ってもらえるような広報を推進します。

④先輩方が整理し組み上げた活動を基礎にしつつも変化を取り入れられる学友会

今年度の学友会方針において「業務内容の整理・組み上げ」が掲げられました。各パートはこれに従い、方針や半期総括、引き継ぎを行うなどある程度業務内容を整理し、組み上げることができたと考えます。来年度はこの整理・組み上げに基づいて各パートに活動してほしいと考えています。整理しただけでは見えてこない部分や実際にやってみないと分からない部分もあると思いますので、まずは組み上げた活動を確実に実行します。もちろん、全てを過去に基づいて活動する必要はなく、新規の活動も行うべきであると考えています。

その上で、引き継いだものに新たな活動を加えて、また引き継ぎを行うという流れを強固なものとしていきます。

【おわりに】

私は何よりも楽しい学友会を作って、みなさんと楽しく活動していきたいと考えています。これまでの経験を生かして、精一杯活動していきますので中央パートのみなさまからのご信任をいただき、中央常任委員長を務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

投開票日 二〇二三年一月二六日

二〇二三年度立命館大学学友会選挙管理委員会

同中央常任委員会